

特別審査委員賞 [高校生の部]

居住していたシンガポールと日本の社会を比較して、説得力ある論旨を展開。高齢者のパワーを社会に活かすという発想が、審査委員の心をつかみました。

NRI学生小論文コンテスト2011
2025年の日本を担う
わたしの夢
入賞作品



おじいさん、おばあさん集まれ!

帝塚山高等学校1年

千島 奈々 ちしま なな



私が小学校3年生の頃、某ファーストフード店で注文をしようとしていた時のことです。カウンターのメニューを見て、ふと顔を上げると、目の前には高校生ぐらいの女の子がいました。見渡してみると、他のレジの前にいる人も、後ろでポテトを揚げている人も、みんな学生の人たちでした。私はこのことにひどく驚きました。

私が幼少時代シンガポールに住んでいた時のことです。その頃もよく某ファーストフード店に足を運んでいました。同じようにカウンターで注文をしようと店員さんと呼ぶと、出てきたのはおばあさんでした。これとこれが欲しいと言うと「OK」と笑顔で対応してく

れました。テーブルの上の私が食べ終えた後のトレーを片付けてくれたのも、おじいさんでした。

家の近くのガソリンスタンドで車にガソリンを入れようとしたところ、「HELLO～」と言いながらおじいさんが車の窓をきれいに拭いてくれました。その人は歯がところどころかけた元気なおじいさんでした。

シンガポールの飲食店のどこを覗いても必ず一人はおじいさん、おばあさんの店員がいて、逆に学生らしき人はほとんど見かけなかったのです。

日本はどうでしょうか？ 見渡してみると、

飲食店の窓にはこんなチラシが張ってあります。「アルバイト募集! 高校生は時給900円〜」。チラシに「高校生」の文字が躍っている状況ですから、レジカウンターにおばあさんの姿は一人もありません。むしろ学生が圧倒的多数です。

日本に帰って来た時、私は驚きました。アルバイトで働いている方の年齢層がぐっと低くなったからです。私はその時何か違和感を感じました。そして、なぜおばあさんがいないのだろうと疑問に思いました。なぜ店は若い人ばかり雇うのだろうとも思いました。若くなくてもまだまだ働ける人はたくさんいます。若い人に比べて経験も豊富でしょう。

私のおばあちゃんは毎朝近くの友人とウォーキングをするほど元気があります。以前私がおばあちゃんに「また働いてみたい?」と聞くと、笑って、「そりゃあ、できるなら」と話していました。しかしその後、「でもなかなかできないよねえ」と言い、「雇ってくれる職場があればねえ。どんどん働くんだけどねえ」と言いました。なぜ、働くお年寄りの数が少ないのか? お店がお年寄りを雇わないこともあると思いますが、そもそもお年寄りがあまり面接を受けに行かないからです。そこでまた疑問がわきました。なぜ面接を受けに行かないのか、ということです。その理由は、ファーストフード店で働くのは若い子という先入観が社会一般にあるからだだと思います。お年寄りの

中には、自分が足を引っ張るかもしれないという不安を持っている人もいるかもしれません。しかし何より、その先入観が、お年寄りの社会復帰の妨げになっているのではないのでしょうか?

今日本で、「無給無年金」の期間がある人が増えているという問題があります。会社を退職してから年金をもらうまでに「空白」の期間があるということです。一般的に会社を退職するのは55歳です。ところが年金をもらえるのは、60歳を過ぎてから。この5年間の空白の時間、退職された方に収入はありません。収入がないと趣味に没頭できないどころか、生活すらまなりません。では働くか、となっても働きやすい環境が整っていません。アルバイト先の職場は若い人で溢れています。まだ学校に通っている人もいます。そんな中で改めて新しい環境になじむのは大変です。リタイヤしたけど、もう一度働きたい!と思う人と仕事をつなぐ窓口が必要です。

以前ある大学教授が、こんなことを言っていました。「学生は時間が大切。バイトをするよりも、その分の時間を勉強に使うべき。一時的にお金を稼ぐよりも、資格をとったりするほうが、生涯賃金は遥かに多い」。私はこの言葉に衝撃を受けました。私はアルバイトをしている高校生、大学生に理由もなく憧れていました。「アルバイト」という言葉の響

きをととてもかっこ良く感じていたのです。私の学校はアルバイトが禁止されているので、「じゃあ大学に入ったら……」と計画までしていました。しかし、この大学教授の発言からアルバイトに対する見方が変わりました。逆にアルバイトする学生の方々は随分時間を無駄にしているのではと思うようになりました。

確かに、自分でお金を稼ぐという経験は学校では体験できません。アルバイトを通して人との接し方や、お金の大切さも分かります。でも、勉強に専念できる時期は学生の時だけです。学ぶ時期に、しっかり学ぶ。社会に出たら嫌でも働かなくてはならないのだから、勉強できる時にしておくべきです。今は力をため込む時期です。

しかし現状は違います。某ファーストフード店、レストラン、スーパーマーケット、レンタルビデオ店……。どの店にもアルバイトの学生店員がいます。学費を稼ぐ、生活費を稼ぐ人ももちろんいるでしょうが、大半が小遣い稼ぎを目的にしているのではないのでしょうか。一時的な収入増と、生涯を通じた収入増、どちらが良いかは一目瞭然です。では、学生の皆さん、その「席」をお年寄りに譲ってみませんか。

そこで提案です。より多くのお年寄りが働けるように、55歳以上の方限定の派遣会社を作ってはどうか。会社は退職したけど、まだまだ働きたい方を集めて、要望を聞

き、その人に合った職場を提供するのです。

しかしこれでは、一般的な派遣会社と同じです。そこで、同じ職場になるべく多くの55歳以上の方を派遣し、気兼ねなく仕事できる環境を整えたいと思います。若い人がいるとどうしても仕事がそちらにまわったり、体力的な部分で引け目を感じてしまう方もいらっしゃると思います。私のおばあちゃんも同じようなことを言っていました。同じ年代の人がいると安心して、新しく物事に取り組むことに自信が付きません。私も今のクラブに入った頃は、同じ学年の子がおらず、心細い思いをしました。それでも、後から同学年の子が次々と入って来てくれたので、以前よりも楽しくなりました。楽しく仕事をするためにも環境づくりは大切です。

少子高齢化社会が叫ばれている中、今の日本を元気にするには、私たち若者の力だけでは足りません。日本にはパワーを持て余しているお年寄りがたくさんいます。私は将来、そんな方たちに仕事を紹介する会社を作りたいです。そして入るお店入るお店が、おばあさん、おじいさんの無料の笑顔で溢れるようにしたいです。

2025年、私は30歳。私の母は59歳。おばあちゃんは85歳になります。元気なおじいさん、おばあさんを集めて表舞台に復活してもらい、年齢にとらわれない社会にしたいです。

大阪府知事の橋下さんは「子どもが笑う

大阪」を目指しています。子どもは橋下さん
にお任せするので、私は、「お年寄りが笑う
日本」を目指します。